

保育・介護・ビジネス名古屋専門学校

—令和4年度 教務課 事業報告—

1. 社会福祉学科
2. 社会人を対象とした課程（1）社会福祉士養成通信課程
（2）精神保健福祉士短期養成通信課程
3. 国家試験合格率
4. 海外短期研修
5. さいごに

表 1. 学科・コース別の卒業生数と進路

学科・コース		卒業生数		卒業生の進路（人数）		
		東京福祉大学	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校	就職	進学	その他
社会福祉	社会福祉	5	5	5	0	
	心理学	12	12	10	1	1（就職・進学希望せず）
	教育学	1	1	1	0	
	保育児童福祉	4	4	4	0	
合計		22	22	20	1	1

（令和5年3月31日 現在）

1. 社会福祉学科（4年制課程）

社会福祉学科では22名の卒業予定者の内、全員が東京福祉大学と本校の両校を卒業する（1名は休学中である）。各コースの内訳は以下のとおりである。

社会福祉コースでは5名全員が本校と東京福祉大学社会福祉学部社会福祉学科通信教育課程を卒業し、社会福祉士受験資格を取得した。2名は精神保健福祉士受験資格も取得した。

心理学コースでは12名全員が本校と東京福祉大学心理学部心理学科通信教育課程を卒業し、認定心理士資格を取得した。また、3名が社会福祉士受験資格を、2名が精神保健福祉士受験資格を取得した。

教育学コースでは1名が本校と東京福祉大学教育学部教育学科通信教育課程を卒業し、小学校教諭I種免許状と認定心理士資格を取得した。

保育児童福祉コースでは4名全員が本校と東京福祉大学保育児童学部保育児童学科通信教育課程を卒業し、保育士資格と幼稚園教諭I種免許状を取得した。

なお、社会福祉学科で社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格を取得した学生の内、国家試験を受験し、合格した学生は、社会福祉士で7名中3名（合格率42.8%、全国平均44.2%）、精神保健福祉士で4名中2名（合格率50%、全国平均71.1%）という結果であった。

卒業後は、表 2 のように、福祉施設、幼稚園、一般企業等それぞれの学習内容や取得した資格、免許を活かして就職した。2名は公務員採用試験に合格して市役所職員となった。1名は公認心理師を目指すため大学院へ進学した。

表 2. 社会福祉学科卒業生の進路の内訳

進路	人数	備考
市役所	2	社会福祉 1名・保育児童福祉 1名
高齢者施設	4	社会福祉 3名、心理学 1名
障害児・者施設	1	社会福祉 1名
放課後等デイサービス	4	心理学 2名、保育児童福祉 1名、教育学 1名
児童養護施設	1	保育児童福祉 1名
精神科病院	1	心理学 1名
幼稚園	1	保育児童福祉 1名
企業	6	心理学 6名
大学院	1	心理学 1名
就職・進学希望せず	1	心理学 1名
合計	22	就職率 100% (=就職者 20名／就職希望者 20名)

(令和 5 年 3 月 31 日 現在)

2. 社会人を対象とした課程

(1) 社会福祉士養成通信課程（1年10ヶ月）

社会福祉士養成通信課程は、令和 4 年度より募集停止を行っている。2 年次生 4 名全員が全指定科目を修了した。第 35 回社会福祉士国家試験においては、国家試験を 4 名が受験し、3 名が合格した。合格率は 75% となり、全国平均合格率 (44.2%) を大きく上回った。

令和 3 年度生 4 名全員が卒業し、令和 5 年度は在籍者 0 名となった。

(2) 精神保健福祉士短期養成通信課程（9ヶ月）

精神保健福祉士短期養成通信課程では、令和 4 年度 60 名が入学した。

学生はたいへん向学心旺盛で、4・5 月連休期間の集中スクーリングや毎月のレポート提出など、着実に学習を積み重ねた。さらに日々のレポート指導や学生からの学習上の質問への回答及び、国家試験対策講義などを通して、精神保健福祉士国家試験に合格することを目指した。

また 7~11 月の精神保健福祉援助実習では、実習生である 7 名は医療機関や障害福祉サービス事業所で熱心に実習に取り組んだ。

その結果、60 名中 60 名が全指定科目を修了した。

第 25 回精神保健福祉士国家試験においては、国家試験を受験した 60 名のうち、59 名が合格した。合格率は、98.3% となり、全国平均合格率 (71.1%) を大きく上回った。

令和5年度には定員が60名から80名と増加し、80名が入学予定である。

3. 国家試験合格率

表3. 令和4年度 国家試験結果報告（丸の内校・現役生のみ）

	第34回(社福士)、第24回(精保士) 第34回(介福士)	
	合格者数/受験者数	合格率
社会福祉士養成通信課程	3名/4名	75%
社会福祉学科(社会福祉士受験)	3名/7名	42.9%
精神保健福祉士短期養成通信課程	59名/60名	98.3%
社会福祉学科(精神保健福祉士受験)	2名/4名	50%
介護福祉学科(介護福祉士受験)	9名/22名	40.9%

全国平均合格率

社会福祉士 : 44.2%

精神保健福祉士 : 71.1%

介護福祉士 : 80.7% (新卒全国平均)

4. 海外短期研修

東京福祉大学グループでアメリカ夏期短期研修、海南医学院短期留学が行われる予定をしていたが新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度は全ての研修の開催を見合わせたが、令和4年度は東京福祉大学グループでアメリカ夏期短期研修が開催された。

5. さいごに

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がありつつも、対面授業を実施した期間が長かった。

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験対策、公務員試験対策、教員採用試験対策の各講座について東京福祉大学と合同授業を実施した。中島総長から教員や学生への指導も行われ、効果的な授業方法を学ぶことができた。

令和5年度も引き続き東京福祉大学との合同授業を実施し、公務員試験、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験、教員採用試験の合格者の増加を図っていきたい。

以上

令和4年度 介護福祉学科事業報告書

介護福祉学科
岩切 英隆

1. 介護福祉学科（2年制課程、職業実践専門課程）

介護福祉学科の令和4年度の卒業生は22名（日本人3名、中国人2名、ネパール15名、ベトナム1名、インドネシア1名）であった。

介護福祉士国家試験については22名全員が受験し、合格者は9名（日本人3名、中国人2名、ネパール人4名）となった。本校の合格率は40.9%であった。

留学生のみの合格率は31.6%であった。（全国の留学生新卒のみの合格率：50.3%）。

上記の内訳は、日本人3名中3名合格（100%）、中国人2名中2名合格（100%）、その他非漢字圏の学生17名中4名（全てネパール人）合格（23.5%）であった。懸念されていた昨年度まで合格者のいなかったネパール人留学生が4名合格できたことは、今後に向けて可能性を感じさせる結果となった。

今後の課題はやはり非漢字圏学生の現役合格である。JLPT N2の学生は3名全員合格しており、不合格になった学生はない。介護福祉士国家試験においては、近年文章による事例問題が増えており、N2レベルの文章理解力が必要と考えられる。よって、今後も留学生については、日本語能力を向上させるための努力が必須といえる。

介護福祉学科では、令和4年度から、時間割の中でレベル別に日本語補講を開講しており、今回ネパール人学生から合格が出たのも、その効果の表れと言える。新年度も継続予定である。

各種奨学金等について、日本学生支援機構奨学金、愛知県修学資金、生命保険協会奨学金、各団体奨学金などがあり、留学生については、日本に保証人がいないためこれまで愛知県修学資金をもらうことができなかつたが、勤勉で優秀な留学生のために、令和4年度、本学が就職まで法人保証を行う法人保証制度を整え、少しでも優秀な福祉人材となる学生を確保できるようにし、3名に法人保証を行った。

また、留学生については、各福祉施設より、卒業後の就職を前提とした施設奨学金を受けることも可能となっており、令和4年度は5名の留学生がその制度を利用していた。

令和4年度の卒業生については、3月中に全員の進路が決定した。就職を希望した留学生も全員が内定を得、全員、就労の在留資格（特定活動）に変更できたことを確認した。

卒業生の進路の内訳は以下のとおりである。

○ <介護福祉学科卒業生の進路の内訳>

進路	人数	備考
就職	20	特別養護老人ホーム（3）、有料老人ホーム（10）、デイサービス（1）、介護老人保健施設（4）、サービス付き高齢者向け住宅（2）
進学	2	本校社会福祉学科（1）、日本福祉大学（1）
合計	22	就職率 100%（=就職 20 名／就職希望者 20 名）

○ （令和 4 年 4 月 4 日現在）

また、令和 4 年度入学生（在校生）は 10 名（日本 5 名、ネパール 2 名、中国 3 名）であった（※休学者 1 名（ネパール）を含む）。

その内、1 名が退学（進路変更）、1 名が介護実習Ⅲで不合格となり、進級不可となった。

○ 平成 21 年度から、緊急雇用対策の一環で愛知県立名古屋高等技術専門校からの委託訓練生を受け入れており、介護福祉士の資格取得に向けて一般学生と一緒に教育を行っている。社会人の教育は一般の学生とは違った難しさがあるが、将来、介護の現場や施設の中核となる人材となるよう教育を行っている。なお、本校では平成 29 年度入学生の 1 名を最後に、入学者がいない状況が続いているが、令和 5 年度から、2 名の委託訓練生の受講が決定している。

○ 介護福祉学科は職業実践専門課程として文部科学大臣から認定（平成 26 年 3 月 31 日）を受けているが、認定を受けた課程については自己評価と学校関係者評価の実施及び公表、並びに教育課程編成委員会の開催が義務づけられており、それぞれ実施した。自己評価については学校評価委員会を 3 回開催し、学校関係者評価委員会（1 回）を経て、「学校関係者評価及び自己評価報告書」としてホームページに公表することとしている。また、教育課程編成委員会については 2 回開催し、留学生数が多くなる状況の中で、学生にとって、よりわかりやすい授業を行うための方法など、委員の意見を参考にして取り組むこととしている。

2. 愛知県介護福祉士養成施設協議会幹事校業務

令和 4 年度は、愛知県介護福祉士養成施設協議会の幹事校であった。現在、愛知県内には介護福祉士養成校が 11 校あり、一年交替の輪番制で幹事校業務が行われている。

主な業務は次の通り。年 3 回養成校の校長会実施。介護施設実習の調整。関係団体との懇談会、委員会等への参加。愛知県の補助事業である介護人材資質向上講座について、愛知県、各養成校、県内施設との調整。日本介護福祉士養成施設協会東海北陸ブロック役員校業務等。

3. 介護福祉士実務者研修科（通信課程 6 ヶ月）

平成 27 年度より、介護福祉士国家試験の受験資格として、これまでの実務経験 3 年以上という条件に加えて「実務者研修」の受講が義務づけられた。これに伴い、本校でも受講生の受け入れを準備し、本科を開設したが、法律の施行が 1 年延期となつたため、平成 28 年度受講生の受け入れは見送り、平成 29 年度 10 月の運用に向けて実質的な準備期間として進めていた。しかし、入学者数の定員割れが続いている介護福祉学科の学生数確保を優先課題として取り組むこととしたため、現在は募集停止の状態となっている。

4. 最後に

令和 5 年度に新たに入学する学生は 12 名である。令和 4 年度に続き、新型コロナウイルスの入国制限の影響を受けて、留学生の新入生の数が少ない状況にある。

令和 6 年度に入ると、新型コロナ後の入国緩和により、留学生の数が全体的に増加しており、介護現場への就職を希望する留学生の入学も多くなることが予測される。

このような中で、就職率 100% を目指し、介護福祉士国家試験の合格率をより上げていくことが介護福祉学科の目標である。本校のメソッドにもとづいた受験対策を継続しつつ国家試験合格率の向上を図ることや、学生の目線に立った指導を行うことにより、高校や日本語学校等からの信頼を得ることができれば、日本人、留学生ともに安定した入学者数の確保ができるものと考える。

＜令和 4 年度 事業報告＞

経営情報ビジネス学科（旧国際教養学科）（留学生、2年制課程）

【進路状況報告】

経営情報ビジネス学科（旧国際教養学科）では、平成 31 年度以降に愛知県及び出入国在留管理庁より定員超過の指導があつて以降、募集停止の状態となっており、令和 3 年 12 月 愛知県からは募集再開の許可が下りたものの、出入国在留管理庁からの継続審査の状況が 続いており、令和 4 年度の新入生についても前年同様 0 名であった。令和 4 年度在校生は、 令和 3 年度 9 月に復学した学生 2 名、令和 4 年度 4 月に復学した学生 3 名（2022 年再入国者 2 名、1 名は出産休学）、令和 3 年度からの進級者 1 名で、6 名であった。

6 名中、2 名は令和 4 年度 9 月に卒業し、1 名は 7 月に退学し帰国、3 名は 3 月に卒業した。従って卒業生は 5 名となり、それぞれの進路は以下の通りとなっている。

（表 1）令和 4 年度卒業生 経営情報ビジネス学科（旧国際教養学科）卒業生進路状況

進路	人数	備考
進学（大学）	0 名	
進学（専門学校）	0 名	
就職（就労）	3 名	（株）吉祥 1 名（飲食業） （株）ライジング 2 名（サービス業）
経営管理	0 名	
就職活動中	1 名	就職未定者 1 名
その他	1 名	育児に専念【家族滞在ビザ】
合計	5 名	

在籍者数も少なかったことから、教員からの手厚い指導、国際就労支援機構からの授業実施、進路指導室の進路指導会及び個別指導などで充実させることができた。そのことにより、学生の意識が向上し、就職という目標を達成できたと考えられる。

国際就労支援機構との連携

令和 4 年度は特定技能試験対策を国際就労支援からのご協力により行っていただいた。 前期は「外食分野」試験対策、後期は「介護分野」試験対策の内容で、試験に合格できるような対策講座をご担当いただいた。

【学外活動報告】

1. 前期 「あいち介護サポートバンク」研修参加

本年度の初の試みとして、ボランティア活動を見据えた「あいち介護サポートバンク」の「介護に関する入門的研修」に参加した。こちらは愛知県内にある介護事業所の人材不足に対応するため平成 28 年に設立された人材バンク主催であり、本研修を受講することで、就職に結び付く可能性もあるということであった。このような社会的活動への参加により、アルバイトだけでなく、ボランティアという人への奉仕という心を学ぶことができた。

2. 後期 那古野神社清掃活動

ボランティア活動の一環として、日頃お世話になっている那古野神社境内の清掃を行った。毎日の通学時には横を通るなどして目にはするが、どのような場所なのか理解できていなかったが、今回の清掃活動を通じ、日本文化の一端を感じることができた。また奉仕活動という点で、自己への成長にも結び付けられた。

【資格外活動指導報告】

令和 4 年度はオーバーワーク対策強化のため、令和 3 年度に引き続きアルバイト状況面談、給与明細、課税証明書、源泉徴収票の提出指導を行った。その指導において、ネパール国籍女子学生にオーバーワークが発覚し、数度の面談、家庭訪問を行い、帰国に関する指導を行った。その結果、最終的には学生も自分の非を素直に認めたため、教員が 8 月 21 日に関西空港まで送り、無事に帰国の途に就いた。また、帰国したことを証明するパスポートの写真（日本出国、ネパール入国のスタンプの頁）が送られてきたので、所定の届出を名古屋出入国在留管理局に提出し、一件落着し、本件は「問題学生」としてカウントされなかった。

保育・介護・ビジネス名古屋専門学校

— 令和4年度 教務課 事業報告 —

5. 国際経営（旧国際ビジネス情報）学科（留学生、2年制課程（3年次編入））

国際経営（旧国際ビジネス情報）学科は、専門学校入学と同時に、東京福祉大学通信教育課程社会福祉学部社会福祉学科経営福祉専攻の3年次に編入学し、より高度で専門的な学習を行っている。

令和4年度、国際経営学科は定員超過問題により、新規入学生は0名であり、在校生は休学から復学した学生（6名）のみであった。

妊娠出産や一時帰国の後、新型コロナウイルスの流行により、再入国できなかつた学生について、6名が休学扱いとなっていた。令和3年前期に1名、令和3年後期に4名、令和4年前期に1名が再入国し復学した。

令和4年度は9月卒業と3月卒業があり、令和4年9月卒業は5名、令和5年3月卒業は1名であった。専門学校を卒業すると同時に、併修する東京福祉大学通信教育課程も卒業し、全員が社会福祉学の学士号を取得した。

令和4年度学事予定及び授業運営については、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことにより、オンライン授業をいったん取りやめ、すべて対面授業で実施した。登校の際は検温・アルコール消毒、授業中でもソーシャルディスタンスに気を付けながら対面授業を行つた。学科内で感染者は1名出たものの、幸い軽症でクラスターは発生しなかつた。

令和4年度の本学科の就職状況はたいへん良好で、6名全員が内定を得、技術・人文知識・国際業務の在留資格を申請し、5名が資格変更できた。進路状況については、以下の通りである。

(表) 国際経営学科卒業生の進路の内訳

進路	人数	備考
進学	0	
就職（就労）	5	株式会社ミツヤコーポレーション、株式会社油屋、下呂温泉山形屋、来先特工合同会社、株式会社K・LINE
就職(特定46号)	0	
就職活動中	1	就労ビザ変更申請中（株式会社グロービングカンパニー）1名
その他	0	
合計	6	

また、卒業生の後追いについても、進路指導室と協力し卒業後の進路確認を進めてきた。

【資格外活動指導報告】

令和4年度はオーバーワーク対策強化のため、令和3年度に引き続きアルバイト状況を常に確認し、給与明細、課税証明書、源泉徴収票の提出指導を行った。オーバーワークの発覚はなかった。

以上

令和4年度 日本語学科 事業報告書

日本語学科は、外国人留学生に対する日本語教育と、日本の専門学校や大学への進学等に向けた予備教育を行っております。令和4年度には、新型コロナウイルスの影響により母国で令和2年度以降待機していた新入生の入国がようやく叶い、在籍者全員が新入生という中、新たなスタートを切り、充実した教育の実施や学生指導に努めました。

1. 在籍管理について

令和4年1月から12月にかけ、不法残留した者、在留期間更新許可申請が不許可となった者等が1名も発生していないことから、問題在籍率は0%となり、令和5年度には「適正校」の選定結果が見込まれます。

しかし、令和5年1月に所在不明により不法残留した者が1名発生致しました。学業と資格外活動の両立が困難で日本の生活に適応できなかったことが原因と考えられます。あらゆる手段を講じて所在確認を行いましたが、連絡が取れない状態となつたため、同月末に除籍処分とし、出入国在留管理局への届出、警察への行方不明届を行うとともに、現在も継続して後追いを行っております。2月には本学園の代理として現地エージェント職員に学生母国の実家に家庭訪問を行っていただき、保護者に除籍通告を渡すとともに、不法残留が与える悪影響や不利益等について説明し、本学園は確認できるまで後追いを行う決意であることを伝え、学生の帰国に協力するよう依頼致しました。今後も引き続き入学課と連携を図り、学生が帰国するまで後追いを行ってまいります。

令和5年度は問題在籍者が1名も発生しないよう、担任や生活指導担当者が一丸となり、学生管理を更に強化し、指導・推進を行ってまいります。

2. 資格外活動管理について

入管法第19条の通り、資格外活動をするにあたっての注意事項を常日頃から学生に伝え、配布物、掲示物を以って、資格外活動時間の厳守を指導しております。また毎月給与明細、通帳を提出させ、勤務先、勤務時間、給与額の確認を行い、学校で適正に保管しております。令和4年度は、残念ながら資格外活動違反をした学生が1名おりましたが、その期間を最小限にとどめ、指導の末、更生させることができました。

令和5年度は資格外活動違反者が1名も発生しないよう、毎月の給与明細、通帳の確認や指導に更に力を入れてまいります。

3. 日本語能力について

「日本語教育機関の告示基準」の第1条第1項第44号において、各年度の課程修了の認定を受けた者のうち、大学等への進学者数や就職者数、日本語能力試験N4相当取得者数の合計が7割を下回るときは改善方策を地方出入国在留管理局に報告することが求められております（以下表1参照）。令和4年度は課程修了者がおりませんでしたので該当致しませんが、入国して間もない新入生が健闘し、全体の約4割の学生が日本語能力試験N4以上に合格致しました（以下表2参照）。令和5年度も引き続き高い合格率を目指し、学生のニーズに即したシラバスで質の高い日本語教育を行ってまいります。

(表1)

課程修了者の日本語能力習得状況等	基準適合性
第44号：大学等への進学者、入管法別表第1の1の表若しくは第1の2の表の上欄の在留資格（外交・公用及び技能実習を除く。）への変更を許可された者及びCEFR・A2相当以上と認められる者の合計が、課程修了の認定を受けた者の7割以上	課程修了者なし →該当なし

(表2)

令和4年度		N2	N3	N4
第1回日本語能力試験	受験者		1名	
	合格者（合格率）		1名（100%）	
第2回日本語能力試験	受験者	1名	15名	35名
	合格者（合格率）	1名（100%）	3名（20%）	18名（51.4%）

4. 出席率について

「日本語教育機関の告示基準」の第1条第1項第37号において、1か月の出席率が8割を下回った生徒については改善のための指導や指導状況の記録等が求められております。

日本語学科では出席率の重要性について、オリエンテーションや授業内において伝達、指導を定期的に行っており、出席率が半期もしくは1年を通して100%だった学生については、「出席率100%表彰」を行い、他学生の前で賞状及び副賞を授与し模範を示すことで、出席率維持の意識を高めています。その結果、令和4年度は在籍者全員の年間平均出席率は99.6%という非常に高い出席率を維持することができました（以下表3参照）。

(表3)

		6ヶ月間の 総授業時間数	全ての学生の 出席すべき単位 時間数の合計	全ての学生の 出席した単位 時間数の合計	全ての学生の 出席率
前期	日本語B学科I	348 (+補講16)	5496	5464	99.4%
	日本語B学科II		12504	12450	99.6%
後期	日本語B学科I	468 (+補講8)	8424	8377	99.4%
	日本語B学科II		15912	15875	99.8%
合計		840			

5. 広報活動について

学科専用facebookページで行事や取り組みの様子を国内外を問わず幅広い層に情報発信し、学校の認知度の上昇、入学希望者数の増加、新たな国からの学生受け入れに繋げております。

令和4年度は1か月最大1万円の予算（1回2,000円×5回）で投稿を宣伝した結果、スパムや誹謗中傷等に値するコメント投稿もなく、1投稿あたり最大5,500、平均約3,000の「いいね！」（「like！」）数を獲得するなど、大きな宣伝効果が得られました（以下表4参照）。問い合わせも急増しており、今後新たな国や仲介機関の開拓が期待できます。令和5年度も更なる閲覧件数と拡散に繋げられるよう、取り組んでまいります。

(表4)

令和4年度	投稿回数	リーチ数	いいね！ コメント・シェア	クリック数	否定的な 意見
平均	3.3回/月（計42回）	30,945	2,712	1,894	0

6. 地域・社会貢献について

①公開講座

国の中、外における日本語普及促進及び地域・社会貢献の一環として、昨年度は初の試みとなる技能実習生を対象とした公開講座を1日実施致しました。令和4年度は残念ながら短期で日本語教育を必要とする団体・施設に巡り合えず、実施に至りませんでした。令和5年度は日本語教育だけでなく、本校の教育について知っていただく機会を作るべく、公開講座の実施を意識的に進めてまいります。

②ボランティア活動

令和4年度は那古野神社、名古屋東照宮、愛知県護国神社において清掃ボランティア活動を実施致しました。神社の方々や通行人の方々からも感謝のお言葉をいただき、留学生が地域の方々と触れ合う機会や、日本文化を体験する機会を設けることができ、非常に有意義な時間となりました。

③研究調査への協力

名古屋市立大学看護学研究科・国際保健看護学領域の教員・学生の皆さんによって開催された第4回「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」フォーラムにおいて、日本語学科の教員がコメンテーターを務め、外国人の保健医療に関し、日本語学校の立場から現場での事例や、経験に基づく意見を発表致しました。これを機に関係者の皆様と交流を通して連携強化を図り、今後も継続して研究協力できるよう努めてまいります。

7. 他の課科との交流・関わりについて

令和4年度は課科の垣根を超えて、様々な形で本学園の方々と関わることができました。直接的な関わりとしては、理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科の学生の皆さんによって実施された英語交流会への参加、また本学園社会福祉学科及び理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科の学生の皆さんによる「SDGs AICHI EXPO 2022」への出展ブースの見学が挙げられます。間接的な関わりとしては、本学園の教職員や学生の皆さんに、日本語学科の季節行事である書き初めや川柳の優秀作品選出投票をGoogleフォームでしていただきましたなど、ご協力を賜りました。令和5年度も引き続き学園全体で取り組むイベントへの積極的参加、およびイベント開催に努めてまいります。

8. 授業評価について

半期ごとに行う授業評価アンケートにおいて、学生の学習状況や教育内容を把握するとともに、評価情報を活用し具体的な問題解決に役立てております。令和4年度は前期・後期共に学生から高評価が得られ、授業への高い満足度が窺えます（以下表5参照）。令和5年度も引き続き教職員一同「学生ファースト」という理念のもと日々改善に努めてまいります。

(表5)

	前期	後期
全クラス平均授業評価	4.89 / 5	4.90 / 5

学校法人大ちばな学園

—令和 4 年度 教務課（生活指導担当及び進路指導担当）事業報告—

教務課（生活指導担当及び進路指導担当）として、「生活指導」と「進路指導」の業務を行つてまいりました。具体的な業務内容としては、以下の通りとなります。

生活指導

令和 4 年度は、留学生および教職員の減少に伴い、生活指導担当者を新たに任命し、令和 3 年度に引き続き、学科を超えた連携を図りながら適正な在籍管理ができるよう、業務を行つてまいりました。

①生活指導担当業務【教務課との連携】

令和 4 年度は、令和 3 年度に引き続き、留学生が学ぶ全学科を対象とし、本学園の使命・役割を着実に進めるためにその一翼を担うべく、取り組んでまいりました。

生活指導担当としての使命の履行促進

所在不明・オーバーワーク・在留期間更新不許可の学生を一人もださない

役割

- ①各学科在籍留学生の生活指導
- ②規律指導のサポート
- ③学科の枠・垣根を払拭し、各部署に所属するネイティブ職員との横断的な協力体制の構築

令和 3 年度においては、入学する際にアルバイト状況やオーバーワークの有無についての確認を行う必要があるとして、出願書類についての提案をいたしました。令和 4 年度においては、全 8 回のミーティングを実施し、引き続き各学科における取り組み事例等を共有してまいりました。留学生の学費納入に関して、これまでのルールを厳格化することで合意しました。

令和 4 年度の学生の状況としましては、日本語学科在籍 53 名中 1 名の学生が所在不明となっております。突然学校に来なくなり、その当日に住んでいた家から出ていってしまい、連絡手段も経たれてしましました。母国への家庭訪問も実施していただきましたが所在は掴めず、現在も後追いを続けております。なお、オーバーワーク、在留期間更新不許可の学生は一人もおりませんでした。

②学費の納入指導

学生が大幅に減少したことにより学費の納入指導頻度も減少しましたが、学費の納入が遅れている学生について、担任教員と同席をして面談を実施いたしました。面談においては、個別に学生の状況を確認し、支払い計画を立てさせた上での納入指導を行いました。その結果、自身で立てた計画通りに納入することができ、無事に卒業まで導くことができました。

③各種奨学金や報奨金の支給

令和4年度は、学内の施策として、「学業優秀者奨励金」「JLPT 報奨金」といった奨学金制度を、学生の学習意欲向上に繋がるよう実施いたしました。また、学外の施策として、独立行政法人に本学生支援機構（以下、JASSO）による物価高に対する経済対策支援事業が行われ、学生への支援を実施いたしました。

学業優秀者奨励金

日本人学生向けの奨励金であり、教務課と連携を取りながら、募集から給付までの一連の業務を行いました。社会福祉学科、介護福祉学科、理学療法学科、作業療法学科の4学科の中から全17名の応募があり、選考の結果、9名へ奨励金を支給いたしました。（第2号：2名、第3号：2名、第4号：5名）

JLPT 報奨金

年に2回（7月、12月）実施される、留学生向けの日本語能力試験（以下、JLPT）合格者に対する報奨金であり、令和3年度までは、N1～N3 レベルのみを対象、N4を受験した学生は対象外としておりました。令和4年度につきましては、日本語学科に入学した学生が多く、来日したばかりで他学科と比べて日本語力が低い学生が多いため、日本語を勉強する動機付けとなるよう、日本語学科に在籍している学生のみ、N4合格者への報奨金を支給することといたしました。また、努力に見合う報奨金の支給とするため、日本語学科とその他学科で支給額を変更しております。なお、不合格者への補助金（2,000円）は、12月試験より廃止いたしました。報奨金の支給実績は以下のとおりとなりました。

【7月試験】

報奨金の金額：

《専門学校生》N1：20,000円、N2：12,000円、N3：7,000円、不合格：2,000円

《日本語学科生》N1：20,000円、N2：13,000円、N3：8,000円、N4：5,000円

支給実績：28名（合格者11名、不合格者17名）を対象に、報奨金を支給。

		N1 合格	N2 合格	N3 合格	N4 合格	不合格	合計
人数	専門学校	0 名	3 名	7 名		17 名	27 名
	日本語学科	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名	1 名
金額	合計	0 名	3 名	8 名	0 名	17 名	28 名
合計		0 円	36,000 円	57,000 円	0 円	34,000 円	127,000 円

【12月試験】

報奨金の金額 :

《専門学校生》 N1 : 20,000 円、 N2 : 12,000 円、 N3 : 7,000 円

《日本語学科生》 N1 : 20,000 円、 N2 : 13,000 円、 N3 : 8,000 円、 N4 : 5,000 円

支給実績：合格者 25 名を対象に、報奨金を支給。

		N1 合格	N2 合格	N3 合格	N4 合格	合計
人数	専門学校	0 名	2 名	1 名		3 名
	日本学科	0 名	1 名	3 名	18 名	22 名
	合計	0 名	3 名	4 名	18 名	25 名
金額		0 円	37,000 円	31,000 円	90,000 円	158,000 円

物価高に対する経済対策支援事業

JASSO より、学生等が安心して修学していくよう、学生生活を送るための食費や修学に必要な消耗品等の費用を支援する大学等に対し、費用の一部を支援金として交付するとの案内を受けました。そこで本校においては、全学生に対して 5,000 円相当の現物およびクオカードにて支援を実施いたしました。

④アルバイト求人情報の提供

アルバイト先からの求人情報を掲示し、学生がアルバイト先を決定する選択肢を提供致しました。求人情報を掲示するにあたり、アルバイト先に対しては、留学生を適切に雇用していただけるかを説明、確認しております。また、就職に結びつきそうな企業であった場合には、進路指導担当と連携を図り、情報共有を行いました。

進路指導

①社会福祉学科

【進路状況】(令和5年3月31日現在)

進路状況	人数
就職内定	20
進学	1
その他(就職・進学希望せず)	1
卒業者数合計	22

●就職

卒業者 22 名の内就職希望者は 20 名でした。卒業までに希望者全員の就職が決定いたしました。内 2 名が公務員試験(社会福祉、保育)に合格いたしました。その他、障害者施設、高齢者施設、一般企業等、それぞれ希望する分野に就職することができました。

●進学

進学希望者 1 名は、心理系大学院 2 校(栃山女学園大学大学院、愛知教育大学大学院)に合格いたしました。本学生は、教育現場で即戦力として働くことができるスクールカウンセラーになる夢をもつており、合格した 2 校の内、学校臨床の実習が充実している愛知教育大学大学院 教育学研究科 教育支援高度化専攻 臨床心理学コースに進学し、公認心理士資格取得を目指すこととなりました。

②介護福祉学科

【進路・在留状況】(令和5年3月31日現在)

進路希望		進路状況		在留状況	
就職	20	就職内定	20	「特定活動」(介護内定者)許可	19
進学	2	進学決定	2	留学生卒業者合計	19
卒業者合計 (内留学生 19 名)	22	卒業者合計 (内留学生 19 名)	22		

※在留状況は留学生のみ

●就職

卒業者数 22 名の内、20 名が就職希望でした。就職希望の学生は全員就職が決定いたしました。就職先業種としては 20 名全員が勉強内容と関連がある分野に就職しました。

●進学

進学については、1名が日本福祉大学 3 年次編入学で、もう 1 名が本学園の社会福祉学科 3 年次編入学となりました。

③国際経営学科(旧:国際ビジネス情報学科)

【令和4年9月卒について】

9月に卒業した5名全員が就職を希望いたしました。

●就職

就職希望者5名全員在留資格【技術・人文知識・国際業務】へ変更されました。

【進路・在留状況】(令和5年3月31日現在)

進路希望		進路状況		在留状況	
就職	5	就職内定	5	「技術・人文知識 ・国際業務」許可	5
卒業者合計	5	卒業者合計	5	卒業者合計	5

【令和5年3月卒について】

令和5年3月に卒業した1名が就職を希望いたしました。

●就職

就職内定者1名は在留資格【技術・人文知識・国際業務】への変更許可申請を行い、結果を待っております。

【進路・在留状況】(令和5年3月31日現在)

進路希望		進路状況		在留状況	
就職	1	就職内定	1	「技術・人文知識 ・国際業務」申請中	1
卒業者合計	1	卒業者合計	1	卒業者合計	1

④経営情報ビジネス学科(旧:国際教養学科)

【令和4年9月卒について】

9月に卒業した2名とも就職を希望していました。

●就職

就職に関しては、1名が在留資格【技術・人文知識・国際業務】への変更が許可されました。もう1名は在留資格【特定活動(継続就職活動)】への変更が許可され、就職活動を継続しております。

【進路・在留状況】(令和5年3月31日現在)

進路希望		進路状況		在留状況	
就職	2	就職内定	1	「技術・人文知識・国際業務」許可	1
卒業者合計	2	就職未定	1	「特定活動」(就職活動継続)許可	1
		卒業者合計	2	卒業者合計	2

【令和5年3月卒について】

卒業者3名の内、1名は在学中に在留資格【家族滞在】へ変更され、就職、進学を希望していません。残りの2名は就職を希望しております。

●就職

就職に関しては、2名とも在留資格【技術・人文知識・国際業務】へ変更されました。

●その他

在学中に在留資格【家族滞在】へ変更した卒業者1名は卒業後に就職、進学することを希望していました。

【進路・在留状況】(令和5年3月31日現在)

進路希望		進路状況		在留状況	
就職	2	就職内定	2	「技術・人文知識・国際業務」許可	2
その他	1	その他	1	「家族滞在」許可	1
卒業者合計	3	卒業者合計	3	卒業者合計	3

⑤在留資格に関する相談関連

在校生・卒業生に関する在留資格に関する相談関連業務は以下の通りです。

1. 在留資格『技術・人文知識・国際業務』及び『特定技能1号』

- ・就労に関する在留資格変更申請手続きについて学生もしくは内定先企業より相談を受けた場合説明実施。また、希望する場合は顧問行政書士を紹介
- ・在留資格(就労関係)変更申請書類、追加書類等記入指導、事前チェック
- ・在留資格『特定技能』を希望する場合「株式会社国際就労支援機構」への案内実施
- ・年度末における在留資格変更申請、審査結果の取りまとめ

2. 在留資格『特定活動』(介護施設内定者) ※介護福祉学科学生対象

- ・学生もしくは就職内定先より相談を受けた場合、在留資格『留学』から在留資格『特定活動』(介護施設内定者)への変更手続きについて説明を実施。
- ・希望があれば、在留資格『特定活動』(介護施設内定者)から、在留資格『介護』への変更申請手続きの説明を実施。

3. 在留資格『特定活動』(就職活動継続)

- ・在留資格『特定活動』(就職活動継続)【変更、更新】に関する相談業務
- ・学校推薦状に関する説明会実施及び申請受付
- ・学校推薦状決裁及び発行、交付。
- ・申請書類、追加書類等の作成補助・事前チェック

⑥卒業生（進路未定）に対する後追い業務

・令和2年度（令和3年3月卒）卒業者の内、進路未定者は令和5年3月末時点で23名です。また、令和3年度卒業者の内令和3年9月卒業者は国際経営学科及び経営情報ビジネス学科合計12名で全員進路が決定しております。また、令和4年3月卒業者の内進路未定者は令和5年3月末時点で3名です。以下表の通り。

※卒業生の進路状況につきましては定期的に愛知県私学振興室、名古屋出入国在留管理局に報告しております。

愛知県私学振興室への卒業生の進路追跡調査報告に関しては令和4年12月20日の実地調査を受け、令和5年1月6日に出された文書により、令和5年3月末時点での報告が最後となります。

名古屋出入国在留管理局への卒業生の進路追跡調査報告に関しましても令和5年3月末時点での報告が最後となる旨連絡をいただいております。

令和2年度卒業生の内進路未定者数（令和5年3月末時点）

学科名	令和3年3月卒業			
	『特定活動』 (就職活動継 続)	『特定活動』 (帰国困難・ 出国準備)	進路 決定者数	卒業者数
国際経営学科 (旧：国際ビジネス情報学科)	2	4	424	430
経営情報ビジネス学科 (旧：国際教養学科)	0	17	1119	1136
小計	2	21	1543	1566
合計	23		1543	1566

↑
進路未決定者

※令和3年4月時点では進
路未決定者が約1000名いま
した。

令和3年度卒業生の内進路未定者数（令和5年3月末時点）

学科名	令和4年3月卒業			
	『特定活動』 (就職活動継 続)	『特定活動』 (帰国困難・ 出国準備)	進路 決定者数	卒業者数
国際経営学科 (旧：国際ビジネス情報学科)	0	0	8	8
経営情報ビジネス学科 (旧：国際教養学科)	2	1	48	51
小計	2	1	56	59
合計	3		56	59

↑
進路未決定者

1. 在留資格『特定活動』(就職活動継続) 所持者への対応

- ・就職活動状況及びアルバイト状況の定期報告

※学校推薦状交付の際には誓約書の内容を説明し、学生に署名・捺印させています。令和2年度から定期報告をした学生にはあらかじめ渡しておいたカードにスタンプを押すなどポイント制にして次回更新の際の判定材料にしています。

- ・学外の就職フェアやセミナー情報を含め求人情報提供しています。
- ・学校推薦状が発行されない学生への帰国指導を行いました。

2. 在留資格『特定活動』(帰国困難・出国準備) 所持者への対応

- ・各学科とも協力し、定期的に状況確認の連絡を行い進路決定へ導きます。具体的には、就職、進学、帰国等の本人の希望を再度聞き取り、就職、進学希望の場合には適宜情報を提供しています。
- ・連絡が取りづらい、日本語能力が高くない学生及び卒業生は、母国語で対応可能な職員に協力を依頼し、連絡が途絶えないように努めています。

以上

たちばな学園
令和 4 年度事業報告

入学課

令和4年度募集結果

令和4年度新入生募集コース		入学定員	目標	募集結果 (3/31現在)
経営情報ビジネス学科(2年制)		240	80	0
国際経営学科 (編入学・2年制)	経営学コース	160	10	0
	日本語通訳コース		10	0
社会福祉学科	保育児童福祉	40	40	39 + 3 (教育学科)
	教育学※			
	心理学			
	社会福祉			
	社会福祉英語P			
介護福祉学科		38	30	12
日本語学科		60	60	24
作業療法学科		40	40	27
理学療法学科		40	40	42
小計		618	310	147
精神保健福祉士短期養成通信課程		80	80	80
小計		80	80	80
合計		698	390	227

※計画時は教育学科未申請（8月から教育学科募集）

2023年度学校別結果（2023/03/31現在）

保育・介護・ビジネス名古屋専門学校（国内募集）

【通学課程】介護福祉学科

学科	介護福祉学科			計	
入学年次	1年次				
	日本人	留学生			
出願者数	6		11	17	
合格者数	6		9	15	
入学者数	6		6	12	

※出願者数は給付型奨学生入学の複数回受験を除く。

※作成時点で、留学生合格者のうち1名辞退。2名が入学手続き未完了。

※留学生入学者のうち、中国2名、ネパール3名、ベトナム1名。

※日本人のうち2名は委託訓練生。

【通学課程】社会福祉学科・教育学科

学科 コース名	社会福祉学科				教育学科		計
	保育	社会福祉	心理	認定心理	ICT		
入学年次	1年次	1年次	1年次	3年次	1年次	1年次	
出願者数	2	12	31	1	3	1	50
合格者数	2	12	28	1	3	1	47
入学者数	2	11	26	0	2	1	42
学科別	39				3		42

※出願者数は給付型奨学生入学の複数回受験を除く。

※合格者数のうち、社会福祉2名、心理（3年次）1名は内部進学。

※内部進学のうち、社会福祉1名は介護卒業生、社会福祉1名・心理（3年次）1名は理学作業退学者。

【通信課程】

課程名	精神保健福祉士短期養成通信課程	社会福祉士養成通信課程	計
出願者数	120 (21)	0	120
合格者数	83 (6)	0	83
入学者数	80 (5)	0	80

※（ ）内数値は実習必要者数。

※社会福祉士養成通信課程は募集停止。

理学・作業名古屋専門学校

【通学課程】

学科名	理学療法学科		作業療法学科		計
	1年次	3年次	1年次	3年次	
入学年次					
出願者数	52	0	31	0	83
合格者数	44	0	35	0	79
入学者数	42	0	27	0	69

※出願者数は給付型奨学生入学の複数回受験を除く。

※作業療法学科合格者数のうち、5名は第二志望合格（第一志望は理学療法学科）。

※作業療法学科入学者数のうち、2名は第二志望合格（第一志望は理学療法学科）。

※作業療法学科入学者のうち、1名は内部進学（作業療法学科退学→再入学）。

(以下詳細)

<国内募集>

通学課程

○ 概況（出願者数 25%増・入学者数 28%増）

全出願者数 150名（前年 120名、前年比 125%）

日本人 140名（前年 112名、前年比 125%）、留学生 10名（前年 8名、前年比 125%）。

※介護福祉学科以外の学科を受験した外国籍者は日本人に加算。

全入学者数 123名（前年 94名、前年比 131%）

日本人 117名（前年 90名、前年比 130%）、留学生 6名（前年 4名、前年比 150%）。

※3/29 時点。他に、入学手続き未完了 1名（留学生 1名）

給付型奨学生入学（日本人）

給付型奨学生入試を2回実施。受験者数計 40名（うち 2回受験 1名）。

合格者は、Special 奨学生:0名、特待生 A:2名、特待生 B:3名。

（前年は計 33名受験、Special 奨学生:1名、特待生 A:2名、特待生 B:3名）

○ 学科別出願・入学状況

理学療法学科 入学目標 40名 実績 42名 目標比 105%

- ・出願 52名（前年 47名、前年比 111%）
- ・合格 44名（前年 44名、前年比 100%）
- ・入学 42名（前年 39名、前年比 108%）

作業療法学科 入学目標 40名 実績 27名 目標比 68%

- ・出願 31名（前年 30名、前年比 103%）。
- ・合格 35名（前年 28名、前年比 125%）。
- ・入学 27名（前年 20名、前年比 135%）。

※合格者のうち第二志望合格 5名（PT 専願 1名、PT 併願 4名）。

※第二志望合格者のうち入学 2名（PT 専願 1名、PT 併願 1名）。

介護福祉学科 入学目標 38 名 実績 12 名 目標比 31.5%

- ・出願 17 名 (前年 13 名、前年比 131%)。

留学生出願 11 名、日本人出願 6 名

- ・合格 15 名 (前年 11 名、前年比 136%)。

留学生合格 9 名、日本人合格 6 名

- ・入学 12 名 (前年 9 名、前年比 133%)。

留学生入学 6 名、日本人入学 6 名

社会福祉学科・教育学科 入学目標 40 名 実績 42 名 目標比 105%

- ・(全体) 出願 50 名 (前年 30 名、前年比 166%)

- ・(全体) 合格 47 名 (前年 28 名、前年比 167%)

- ・(全体) 入学 42 名 (前年 26 名、前年比 162%)

※計画時は教育学科申請前のため当初目標比で算出

※学科・コース別

《社会福祉学科 保育児童福祉コース》 出願増・入学増

- ・出願 2 名 (前年 1 名、前年比 200%)

- ・合格 2 名 (前年 1 名、前年比 200%)

- ・入学 2 名 (前年 1 名、前年比 200%)

《社会福祉学科 社会福祉コース》 出願増・入学増

- ・出願 12 名 (前年 9 名、前年比 133%)

- ・合格 12 名 (前年 7 名、前年比 152%)

- ・入学 11 名 (前年 7 名、前年比 157%)

《社会福祉学科 心理学コース》 出願増・入学増

- ・出願 32 名 (前年 19 名、前年比 168%)

- ・合格 29 名 (前年 19 名、前年比 %)

- ・入学 26 名 (前年 17 名、前年比 153%)

《教育学科全体と前年度の社会福祉学科教育学コースを比較した場合》

- ・出願 4 名 (前年 1 名、前年比 400%)。

- ・合格 4 名 (前年 1 名、前年比 400%)。

- ・入学 3 名 (前年 1 名、前年比 300%)。 ※作成時点 1 名未手続。

通信課程

社会福祉士養成通信課程 ※前年度に引き続き募集なし

精神保健福祉士短期養成通信課程 ※前年度定員 60 名に対し、今年度より定員 20 増。

- ・出願 120 名 (昨年 114 名、昨対比 105%)、受講者 80 名 (昨年度 59 名、昨対比 105.3%)。

《参考 通学課程 入試区分別入学状況》

入試区分	学科	理学		作業		介護		社会福祉					教育			計		
								保育		社福		心理	認定心理		ICT			
	コース																	
AO	出願	35(27)	130%	20(21)	95%	4(4)	100%	1(1)	100%	9(2)	450%	23(14)	164%	1(0)	-	0(0)	-	93(69) 135%
	合格	32(26)	123%	22(21)	105%	4(4)	100%	1(1)	100%	9(2)	450%	23(14)	164%	1(0)	-	0(0)	-	92(68) 135%
	入学	30(24)	125%	17(15)	113%	4(4)	100%	1(1)	100%	8(2)	400%	20(13)	154%	1(0)	-	0(0)	-	81(59) 137%
指定校	出願	10(11)	91%	7(3)	233%	0(0)	-	1(0)	-	0(2)	0%	3(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	21(16) 131%
	合格	10(11)	91%	7(3)	233%	0(0)	-	1(0)	-	0(2)	0%	3(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	21(16) 131%
	入学	10(11)	91%	7(3)	233%	0(0)	-	1(0)	-	0(2)	0%	3(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	21(16) 131%
学推	出願	0(2)	0%	1(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(1)	0%	1(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	2(4) 50%
	合格	0(1)	0%	1(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(3) 33%
	入学	0(1)	0%	1(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(3) 33%
自推	出願	0(2)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(2) 50%
	合格	0(2)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(2) 50%
	入学	0(2)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(2) 50%
一般	出願	6(5)	120%	2(4)	50%	0(0)	-	0(0)	-	2(3)	67%	4(4)	100%	2(1)	200%	1(0)	-	17(17) 100%
	合格	1(4)	25%	4(3)	133%	0(0)	-	0(0)	-	2(1)	200%	2(4)	50%	2(1)	200%	1(0)	-	12(13) 92%
	入学	1(1)	100%	1(1)	100%	0(0)	-	0(0)	-	2(1)	200%	1(3)	33%	1(1)	100%	1(0)	-	7(7) 100%
社会人	出願	1(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(1) 100%
	合格	1(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(1) 100%
	入学	1(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(1) 100%
給付型	出願	0(0)	-	1(1)	100%	0(0)	-	0(0)	-	1(1)	100%	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	2(3) 67%
	合格	0(0)	-	1(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(1)	100%	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	2(2) 100%
	入学	0(0)	-	1(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1(1)	100%	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	2(2) 100%
留学生	出願	0(0)	-	0(0)	-	11(8)	138%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	11(8) 138%
	合格	0(0)	-	0(0)	-	9(6)	150%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	9(6) 150%
	入学	0(0)	-	0(0)	-	6(4)	150%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	6(4) 150%
委託訓練	出願	0(0)	-	0(0)	-	2(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	2(0) -
	合格	0(0)	-	0(0)	-	2(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	2(0) -
	入学	0(0)	-	0(0)	-	2(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	2(0) -
計	出願	52(47)	111%	31(30)	103%	17(13)	131%	2(1)	200%	12(9)	133%	32(19)	168%	3(1)	300%	1(0)	-	150(120) 125%
	合格	44(44)	100%	35(28)	125%	15(11)	136%	2(1)	200%	12(7)	171%	29(19)	153%	3(1)	300%	1(0)	-	141(111) 127%
	入学	42(39)	108%	27(20)	135%	12(9)	133%	2(1)	200%	11(7)	157%	25(17)	147%	2(1)	200%	1(0)	-	122(94) 130%

*教育学科教育学認定心理士コースの昨対比は前年度の社会福祉学科教育学コース。

*()内は前年度実績。%は昨対比。社会人入学は理学作業のみ。給付型は初受験のみ。※出願数は第一志望のみ。合格・入学は第二志望含む。

《参考 通学課程 AO登録入学状況》

学科	理学		作業		介護		社会福祉					教育			計		
							保育		社福		心理	認定心理		ICT			
コース																	
予約	59(55)	107%	37(37)	100%	8(9)	89%	4(3)	133%	16(5)	320%	41(28)	146%	2(2)	100%	0(0)	-	167(139) 120%
登録	38(33)	115%	20(26)	77%	4(4)	100%	1(1)	100%	10(3)	333%	25(15)	167%	2(0)	-	0(0)	-	100(82) 122%
出願	35(27)	130%	20(21)	95%	4(4)	100%	1(1)	100%	9(2)	450%	23(14)	164%	1(0)	-	0(0)	-	93(69) 135%
AO以外出願	0(1)	0%	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(1)	0%	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0(3) 0%
合格	32(26)	123%	22(21)	105%	4(4)	100%	1(1)	100%	9(2)	450%	23(14)	164%	1(0)	-	0(0)	-	92(68) 135%
入学	30(24)	125%	17(15)	113%	4(4)	100%	1(1)	100%	8(2)	400%	20(13)	154%	1(0)	-	0(0)	-	81(59) 137%

*()内は前年度実績。%は昨対比。出願数は第一志望のみ。合格・入学は第二志望含む。

登録/予約	64%(60%)	54%(70%)	50%(44%)	25%(33%)	63%(60%)	61%(54%)	100%(0%)	-(-)	60%(59%)
出願/予約	59%(49%)	54%(57%)	50%(44%)	25%(33%)	56%(40%)	56%(50%)	50%(0%)	-(-)	56%(50%)
合格/予約	54%(47%)	59%(57%)	50%(44%)	25%(33%)	56%(40%)	56%(50%)	50%(0%)	-(-)	55%(49%)
入学/予約	51%(44%)	46%(41%)	50%(44%)	25%(33%)	50%(40%)	49%(46%)	50%(0%)	-(-)	49%(42%)

*予約数に占める、登録・出願・合格・入学の割合。()内は前年度実績。

<媒体>

- ① 広報媒体費用以外の経費(報酬委託手数料等)を削減し全体の予算を抑え、効果があがる広報媒体に経費を投入した結果、資料請求者数(※1)、出願者数増(※2 参考)につながった。
- ② DM 発送等は昨年度から引き続き絞り込みを行った。大きな金額の減少ではないが、今後もDMの効果率は上げていく。

① 広報媒体

増額：リクルート

縮小：マイナビ、ライセンスアカデミー

新規契約：ライフマップ

打ち切り：日本ドリコム

据え置き：さんぽう、昭栄広報、ディスコ、愛専各、共同イメージズ

2021年度参画金額 19,260,755 円 (税込)

2022年度参画金額 20,785,600 円 (税込)

前年比 107.9%

※1 資料請求数の対比

年代別	2021年度 (2021年3月～2022年 2月)		2022年度 (2022年3月～2023 年2月)		資料請求数の差		前年比	
高3生	1,889	(85)	2,010	(181)	+ 121	(+ 96)	106.4 %	(212.9%)
社会人 等	374	(26)	318	(14)	-56	(- 12)	85.0%	(53.8%)
高2生	3,061	(23)	3,040	(32)	-21	(+ 9)	99.3%	(139.1%)
高1生	940	(6)	1,222	(8)	+ 282	(+ 2)	130.0 %	(133.3%)
合計	6,264	(140)	6,590	(235)	+ 326	(+ 95)	105.2 %	(167.9%)

※()の数字はホームページからの資料請求者。

② DM 発送部数比較 (前年費 92.6%)

	2021年度発送	2022年度発送
3月	8,619	6,045
4月	—	8,567
5月	10,798	—
6月	6,061	—
7月	—	6,184
8月	5,735	6,278
9月	—	14,617
10月	14,178	—
11月	—	—
12月	—	—
1月	6,748	6,598
2月	—	—
合計	52,139	48,289

※2日本人出願者数

	2021 年度	2022 年度	前年比
理学療法学科	47	52	110.6%
作業療法学科	30	31	103.3%
社会福祉学科	30	50	166.6%
介護福祉学科	5	6	120.0%
合計	112	139	124.1%

※給付型奨学生入学再受験分は重複するため除外

<媒体まとめ>

広報媒体を前年度より業者により縮小、打ち切りもあったが、効果の高いリクルートを増額したため全体では微増とした。高3生、高1生の資料請求者が増加し、高2生は微減という結果となった。広報媒体の参画金額の前年比（107.9%）と資料請求数の前年比（105.2%）と同じという結果が出た。さらに出願者数（日本人）の前年比 124.1%と増加した。比較的効果の高いマイナビ等を縮小しても効果の高いリクルートを増額し、無料参画で一定の効果を出したライフマップを新規契約し、他も効果の高い必要なものに絞って参画した結果だと考える。年代別では社会人等の減少幅が大きい（前年比 85.0%）。また、本校ホームページからの資料請求が前年比 167.9%と大きく増加した。中でも高3生が 212.9%と 2 倍以上増加した。リニューアルした際、資料請求、イベント予約、AO 登録予約等をしやすくするため画面をスクロールしても固定されるフローティングバナーを採用する等ユーザーが使用しやすくなったことも要因と考える。イベント参加者のアンケート結果で DM がきっかけとなっている方は約 6.1%（昨年約 10%）となっている。オープンキャンパス参加のきっかけは 1 位がホームページ、2 位が進学情報サイト、3 位が友人、4 位がガイダンスとなっている。実際 1 位～4 位の層に DM を発送しているため DM からの参加率は実質もっと高いと思われるが、資料請求者をさらに絞り込み動員の見込みが薄いと考えられる層には発送しない策を考える。

<行事>

対象期間 2022/03/24 ~ 2023/02/25

参加者実績		実施回数	参加者数	前年比
理学・作業	来校	16 (14)	219 (208)	105.2%
	WEB	2 (5)	5 (22)	22.7%
	個別相談会	26 (30)	22 (23)	95.6%
	計	44 (49)	246 (253)	97.2%
保育・介護	来校	20 (14)	219 (155)	141.2%
	WEB	2 (3)	14 (10)	140.0%
	個別相談会	26 (30)	25 (28)	89.2%
	計	48 (47)	258 (193)	133.6%
通信教育説明会		4 (4)	63 (25)	252.0%

学年別参加者数		出願対象者	前年比	高校1・2年生	前年比
理学・作業	来校	179 (169)	105.9%	40 (39)	102.5%
	WEB	4 (20)	20.0%	1 (2)	50.0%
	個別相談会	21 (23)	91.3%	1 (0)	-
	計	204 (212)	96.2%	42 (41)	102.4%
保育・介護	来校	154 (107)	143.9%	65 (48)	135.4%
	WEB	11 (9)	122.2%	3 (1)	300.0%
	個別相談会	24 (21)	114.2%	1 (7)	-
	計	189 (137)	137.9%	69 (56)	123.2%
合 計		393 (349)	112.6%	111 (97)	114.4%

※ () は昨年度の実績

2022年度は、新型コロナウイルスの状況を鑑み、来校型オープンキャンパスの実施回数を増加させた。結果、参加者数は増加した。(前年比：理学・作業・名古屋専門学校 105.2%、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 141.2%)。名駅校は、来校型オープンキャンパスを16回実施(前年より2回増)、丸の内校は大学オープンキャンパスを含め、20回実施(前年より6回増)した。丸の内校は、教育学科新設に伴い、名駅校オープンキャンパスに教育分野を複合させたものを3回(説明会場等は別で行った。)含めている。

名駅校は、3~5月の参加者が少なかったが、6月から徐々に増加(8月の参加者数がピーク)した。丸の内校の参加者数が増加した要因については、2分野開催から3分野開催の回数を増やしたことにより、参加者数が増加したことが考えられる。また、実施回数を増加した他、夏休み期間に交通費補助2倍キャンペーンを実施するなど、強化策を行ったところ、前年度より参加者増となつた。

WEBオープンキャンパスは、来校型オープンキャンパスの実施回数を増やしたことにより、実施回数を減少した。参加者数は、名駅校は減少(前年比20%)、丸の内校は微増(前年比122.2%)した。ただし、反応が薄い参加者もあり、来校して実際の学校を見てみたい高校生が多いようを感じる。次年度より、学校紹介動画等をHPで恒常に視聴できるようにし、オープンキャンパスへの参加促進や、AO予約につなげられるような動画制作を計画している。

通信教育説明会は、参加者数63名と前年より増加(前年比252%)した。参加者数がかなり増加したようにみえるが、前年度の参加者数が極端に少なかったため、前年度以前に戻ってきたよう感じる。(参考：令和2年度62名、令和元年度70名、平成30年度96名)

今後、よりよいイベントを開催するためにも、動画やSNSなどを有効活用し、さらなる参加促進を図るだけでなく、イベント内容の質の向上に努めていきたい。

<高校訪問>

依然としてコロナ禍が続くうえ、会場および校内ガイダンスの参画数削減のため高校生と対峙する機会が減少するという厳しい状況下であったが、下記事項が功を奏し 2023 年度の、たちばな学園昼間学部通学課程総入学者数は、前年比 129%(122 名/94 名)を達成した。

※3/22 時点。他に、入学手続き未完了 5 名（日本人 3 名、留学生 2 名）

○増加要因

- ・年度初めの訪問ミーティングにて、教務課各学科の先生方から、本校ならではの強みについてレクチャーを受け、広報に活用したこと。
- ・パンフレットに掲載されている在校生や卒業生の出身校への掲載報告や、在校生ポスターの提示が効果をもたらした。
- ・例年と比較して早い時期(6 月～10 月)に資料請求者に電話掛けを行い、オープンキャンパスに動員したこと。
- ・訪問を重ねることにより、話をじっくりと聞いてくれる学校が増加し、先生方と信頼関係を深めることができた。
- ・教員採用1次試験・公務員1次試験にランクの低い高校からもたくさん合格したことをアピールした。

教育学科（教育学 I C T コース・教育学認定心理士コース）については、年度途中に新設が確定し、8 月から広報を開始した結果、入学確定者は 3 名となった。（3/25 時点。他に併願者で入金待ち 1 名）。2023 年度は、教育学科として広報できなかった期間(4 月～6 月)に重点をおき高校訪問を行って、カリキュラム提示やリーフレットの活用した周知・アピールをし、定員 40 名の充足を目指す。さらなる結果を出すために、本学の特色が周知できるように丁寧な対応に努めていきたい

<国外募集>

○日本語学科

令和 4 年度合計 出願 98 名(昨年同期 52 名) 申請数 45 名 交付 24 名

- ・今年度より 10 月生募集を無くし、4 月生募集に一本化しました。
- ・適正校化を第一に考え、学生の質向上を計るために試験を厳格化しました。しかし、質の高い学生を確保し申請することができましたが、全国一斉に行われた電話調査及び理由が明確でない預金残高に関する疑義等により不交付が多数でした。電話調査対策で突然の日本からの電話に冷静に答えられるようエージェントに対して想定問答集等の情報を発信し事前練習させていましたが、日本人による突然の電話質問は冷静さを失わせ、学生の質とは関係なく交付率を向上させることはできませんでした。今後は、日本からの電話対応トレーニングのため学生アルバイト等の活用も検討してまいります。
- ・本校のメインの募集学生であるネパール人学生の募集に関しては、過去何度も入管の意図的入数調整と思われる不交付のケースが見受けられますが、今後はコロナの影響も無くなりますが、カントリーリスク分散の意味でも多国籍化を計り安定的な学生確保をめざしたいと思います。

◆入試・選考

- ・中国人学生確保を継続課題としたが、日本語学科を含めて非適正校に対する拒否反応及び大学志向が強く、ゼロコロナ政策も相まって学生が確保できず、東京福祉大学の学部、大学院へ誘導せざるを得ませんでした。
- ・海外現地募集活動については中国等を中心に各種模擬授業・会議を企画したが、多くが現地で身動きが取れず中止となりました。しかし、年度末にかけて Zoom によるエージェント及び教育機関との会議依頼が増加してきており、現地渡航による募集活動も含めて明るい兆しが見られます。また中国以外の国（ベトナム、バングラデイシュ、フィリピン等）においても、コロナ後の日本語学校再開に伴う協力協議の復活が何件か出てきていますので、慎重に審査し募集協力体制を整えたいと思います。

以上

令和 4 年度 事業報告書

(総務経理課)

令和4年度 総務課 事業報告書

1.令和4年度の組織体制について

◎総務課・経理課の統合（令和4年4月1日付）

希望退職等による人員削減に伴い、総務課においても一人当たりの業務負荷が増したことから、事務の合理化が必須となりました。総務課と同様に経理課においても人員減による業務負荷が増したことから、令和4年度に実施した事務所移転を機に統合し、総務経理課が始動いたしました。

今後は、課員の連携強化を図るとともに令和6年度以降より実施を検討している課内のジョブローテーション（総務担当→経理業務、経理担当→総務業務）が可能となるよう、その基礎固めに取り組みます。

2.令和4年度の特殊業務について

1) 改善計画の履行継続

令和4年度に実施された調査では、愛知県からは法人運営を含め、本学園の改善への取り組みに関して、特段の問題はないとの判断をいただきました。しかし、法人運営に関する改善への取り組みは、継続実施が必要不可欠な内容となります。今後も継続して取り組むと共に特に監事の業務監査に関しては、定着化が図れるように実施してまいります。

なお、令和4年度に当課で実施した改善事項に関する取り組みは、次の内容となります。

☆監事監査の定例化（令和3年度より継続）

監事の業務は、財務上の監査のみでなく、寄附行為に記載の本来の監事（業務）監査を実施し、法令順守の要として機能をさせる必要があります。

今回の取り組みにおいては、業務監査等の実経験を監事・事務局が持ち合わせていない中で、いかにそれをムリなく実施可能とするかにポイントを置き検討を行いました。

その結果、本学園内で行われている各部署所属長が参集する委員会等へ出席の上、実際に現場にて勤務する教職員の取り組みなどの現状把握やヒヤリング等を行い、その会議の場において、適宜、監事から助言・指導等を得る内容を業務監査と位置づけ、計画に加え実施いたしました。

コロナ禍で運用ができなかった部分もありますが、今後もできる事から実直に取り組み、本学園にあった監事監査の方法を模索しながら取り組んでまいります。

○ ◎理事・評議員の業務執行に関する監査

(取り組み内容)

理事会・評議員会開催の都度、出席し、適宜助言・指導

令和4年度の開催回数（3月末まで）

理事会 5回

内、監事の出席回数 上村監事 5回（本人出席）
富田監事 5回（本人出席）

評議員会 6回

内、監事の出席回数 上村監事 6回（本人出席）
富田監事 6回（本人出席）

○ ◎学園の業務執行に関する監査

○各部署が取り組む事業計画及び学園全体の予算

(取り組み内容)

毎年3月に開催する理事会・評議員会において助言・指導

(取り組み実績)

今年度は令和4年3月22日に開催された理事会・評議員会に出席の上、事業計画・予算に関しご確認等をいただきました。

○各部署が取り組んだ結果に関する事業報告

(取り組み内容)

毎年5月に実施される理事会・評議員会にて助言・指導

(取り組み実績)

前年度（2021年度）に関しては、令和4年5月25日に開催された理事会・評議員会に出席の上、前年度の事業への取り組み結果報告及び決算内容に関しご確認等をいただきました。

○事業報告に関する各部署の詳細な取り組みに関する評価

(取り組み内容)

年3回程度開催される学校自己評価委員会にて助言・指導

(取り組み実績)

令和4年度の開催回数

学校自己評価委員会 3回

内、監事の出席回数 上村監事 3回（本人出席）
富田監事 3回（本人出席）

学校関係者評価委員会 1回

内、監事の出席回数 上村監事 1回（本人出席）
富田監事 1回（本人出席）

介護福祉学科 教育課程編成委員会 2回
内、監事の出席回数 上村監事 2回（本人出席）
富田監事 2回（本人出席）

（取り組み報告）

学校自己評価委員会は、今年度は3回（令和4年6月27日・7月29日・9月16日）開催され、そのすべてに監事2名が出席をし、助言・指導をいただきました。

今回、本委員会への出席を業務監査に加えた理由として、本委員会には本学園すべての部署の所属長が参集することから、面識が作れ、また、各部署の運営方針や所属長の考え方等がこの場で確認することができ、コロナ禍ですべての部署を巡視・面談等が難しい中で、効率的に確認が実現すると考えたためです。このような理由から、業務監査の一助となると考え、取り入れました。

第1回の委員会では、富田監事より、本学園を取り巻く環境の厳しさ、また、学園に在籍する学生数の激減による財政面の厳しさに関し、再認識することと、各部署の所属長が良き学校・良き教育内容を実現すべく、改善に継続的に取り組み、合わせて、自部署だけではなく、学園全体として広い視野で取り組むように助言をいただきました。

その後、2回開催され、それぞれの回で監事2名からは、第三者的な目線で各部署における取組に関する指摘や助言をいただき、次につながる改善内容を含めた自己評価報告書がまとまりました。

今回、監事2名を含めた委員会の開催は、初めての取り組みではありましたが、監事もすべての部署の所属長が参集の上、各部署の前年度の取り組み状況及び改善内容を直接確認ができ、質疑応答も実施できたことで、本学園の状況をよりよくご理解いただける機会となつたと考えます。また、各部署の所属長も監事の存在や活動意義を知る機会となり、コミュニケーションを図る良い機会ともなりました。

次年度も継続して、本取り組みを監事監査の取り組みの一つとして実施していきたいと考えます。

2) 事務の効率化

希望退職等に伴い、人員が大幅減となったことから、部署統合を機に業務を見直し、その一部をアウトソーシング化しました。

☆業務のアウトソーシング

令和4年度は、事務の効率化を図るべく、給与関係業務をアウトソーシング化しました。アウトソーシング後は、依頼先と本学園の間で不具合等が発生し、導入で期待した業務のスリム化やスピーディーな対応が叶わず、適宜委託先と打ち合わせを行い、改善を進めてきました。また、令和4年度末には、新たに役員車

両の運転業務もアウトソーシングしました。

令和5年度は、給与関係業務に関しては、令和4年度の改善内容の履行を評価する年度とし、また、運転業務は本学園が希望する取り組み内容となっているかの評価を行いつつ、今後のアウトソーシングの継続有無を検討したいと考えます。

◎給与関係業務のアウトソーシング

具体的な内容は以下のとおりです。

①委託業務

- ・教職員（常勤）の勤怠確認及び給与計算、明細書の発行
- ・非常勤教職員の給与計算、明細書の発行
- ・アルバイト職員の給与計算、明細書の発行
- ・賞与計算及び明細書の発行
- ・給与・賞与に関する振込・住民税振込データの作成
- ・年末調整業務 他

②開始時期 令和4年4月分よりスタートし、現在も継続委託中

③委託先 クロスアロー㈱

◎役員車両運転業務のアウトソーシング

具体的な内容は以下のとおりです。

①委託業務

- ・役員（理事長）の送迎
- ・役員不在時における教職員の送迎
- ・役員車両の点検・管理
- ・役員不在時における庶務業務

②開始時期 令和5年2月6日よりスタートし、現在も継続委託中

③委託先 大新東㈱

3) 教職員の質的向上のための学内教育の推進

本学園では、教職員に対する教育として、教育理念・教育方針等の共有化を中心となり、実務はOJTを主としたものでした。

昨今、法改正や業務において必要なスキル等、日進月歩であり、それらの知識取得による教職員個々の成長が今後の本学園の発展成長には必要不可欠な内容であると考えます。

そのため、下記のとおり教職員誰もが手軽に業務の空き時間を有効に活用し、教育が受けられる体制を構築し、取り組みたいと考え、eラーニングを令和4年度に導入いたしました。

現時点では、e-ラーニングに慣れていただくべく、教材すべてを自由に閲覧・受講ができるようになっていますが、次年度からは階層別研修へ移行し、eラーニングを人事考課等に結び付け、コンプライアンス意識と個々の能力を高め、教育内容

を実務に活かし、そこから生まれた成果によって評価できるよう、その頑張りに報いるしくみづくりを行います。

また、役職者に関しても、役職に見合う能力とマネージメント力により、部署の総合力を底上げが可能となることを目標に取り組んでまいります。

令和4年度

2月～3月・・・eラーニングの試用期間（教職員が自由に受講可）
人事考課及び職制における教育内容の検討

令和5年度

4月・・・・・・e-ラーニングの本格稼働

4) 財政面への影響を考えた教職員の人員整理に関する業務

愛知県による是正勧告以降、一部の学科の学生募集が見合せとなり、また新型コロナウィルス蔓延等の再拡大が影響し学生数が激減、令和元年度では退職勧奨により19名、令和2年度では希望退職を募集し56名、令和3年度は希望退職・雇止めにより16名（希望退職14名・雇止め2名）の教職員の人員整理を行いました。

令和4年度においても、財政状況が急加速で悪化している状況を受け、希望退職者の募集を行い、その結果、5名募集のところ、2名の応募がありました。そこに自己都合退職2名を加味し、4名分の人件費分の削減を担保しました。残り1名分の人件費相当額のコストの削減については、総務経理課で清掃業務委託費及び派遣費用等の削減や一部の職位の凍結による人件費削減、車両等の資産売却など、あらゆる面において検討を行った結果、何とか当初予定の5名分の人件費相当額を次年度に削減が可能となりました。

今後の本学園の財政状況等を考慮し、更なる退職勧奨もしくは希望退職による人員整理に関し、肃々と履行ができるよう、準備を進める予定であります。

5) グループウェアの導入による情報共有化の促進

令和3年度中に実施できなかったグループウェアの導入を令和4年度に実現し、業務の効率化を図るべく、以下のとおり紙ベースで行っていた申請・決裁書類を電子化し、電子決裁による運用へ切り替えを行うとともに当初予定であった情報共有化ツールとして、活用し始めた状況です。

令和5年度は令和4年度で実施した運用の定着化とともに、さらに紙ベースの申請書を電子申請に切り替え、利便性を高める取り組みを実施いたします。

①導入内容

グループウェアデスクネットの導入

②導入により実現した内容

規程類の一元管理・情報共有化

- 申請書類フォーマットの一元管理
- 電子申請
- 設備予約・管理
- ③電子申請化した書類
 - 決裁願、物品購入申請書、立替払申請書、旅費交通費精算書、卒業式決裁願、入学式決裁願
- ④今後電子化する書類
 - 休職願、復職願、扶養手当支給申請書、報告書、全体ミーティング欠席届、各種証明書申請書、住所変更届

6) 人事考課制度の見直しに関する取り組み

令和4年度は、教職員教育を人事考課へ反映させることを目標としておりました。しかし、一部の学科の学生募集が年度内での募集再開に目途が立たず（令和5年3月30日に入管より募集再開許可を得ました。）、本学園への新入生が年々減少する中で、財政状況もひっ迫し、人事考課後に支給する賞与に関しても、支給が危ぶまれる状況となりました。

その為、令和4年度は、新たな取り組みを一旦凍結し、現状の人事考課の内容で再度考課を行い、その中で、役職ごとのウェイトの変更等を行い、より、本学園にフィットした内容とすべく、取り組みを行いました。

令和5年度は、財政状況に明るい兆しはないものの、教える側（教員）のスキル・レベルアップは必要不可欠であることから、教職員教育を実施し、人事考課へ紐付けしてより納得感ある人事考課の実現に取り組んでまいります。

7) 財政健全化に向けた冗費の見直しと削減

令和4年度は、渡日前の学生の入国により、日本語学科には学生が入学したものので、一部の学科に関しては、年度内に募集再開の目途が立たなかったことから、総務経理課では事業計画にて策定した経費削減策を蕭々と履行する以外なく、以下のとおり冗費削減に努めました。

※令和5年3月30日に入管より募集再開許可を得ました。

① 電力会社の見直し

新型コロナウィルスの蔓延の長期化にロシア・ウクライナ情勢等が重なり、エネルギー自給率が低い日本も含め、世界的な電力高騰が発生しました。このため、新電力会社は軒並み新規契約がストップになり、また、既存の契約に関しても、大幅に契約電力料の値上げが発生しました。その為、当初検討をしていた、電力会社の見直しによるコスト削減は叶わず、費用面としてコスト負荷が掛かった年でした。今後は電力市況に注視し、状況に応じ契約内容を変更していきたいと考えます。

② 学園内におけるエコ活動

今年度は、特に文房具類（クリアファイル・クリップ類、紙ファイル等）のリユースに新たに取り組み、各校舎に回収ボックスを設置し、余剰品の回収を行いました。回収後は、グループウェアにて在庫一覧を掲示の上、情報共有を図りました。その結果、各部署では購入前に在庫表を確認し、ムダな経費をかけず、余剰品が有効活用できるようになり、継続的な冗費削減の一助となったと考えます。

今後も継続して取り組んでまいります。

③ 貸貸物件の解約

令和4年度は、総務課・経理課が利用していた、7号館の校舎を令和4年9月末に解約いたしました。解約に伴い、月額家賃70万円、年額家賃840万円の削減に貢献いたしました。なお、本町倉庫ビルについては、次年度以降、利用頻度等を考慮し、解約を検討します。

④ 資産売却

総務経理課において管理している車両3台（軽車両2台・普通車両1台）に関し、維持費削減の目的で、今年度は軽車両2台を売却いたしました。

残り1台の車両に関しても、今後カーシェアリング等を検討し、車両保有時の管理コストの削減を目指し、さらに取り組み、次年度には売却も検討してまいります。

売却済車両	ダイハツ	軽自動車	タント	2台
今後売却検討する車両	トヨタ	普通車両	ルーミー	1台

8) 丸の内校舎 W I F I 設備更新等による教育環境の整備

オンライン授業におけるスムーズな動画配信と双方向授業をスムーズに展開できるよう、また、令和5年度4月より新設される教育学科教育学ICTコースでの授業対応を図るべく、丸の内校舎においてWIFI設備を一新いたしました。

また、上記の他、5号館2F・3Fの教室においても上記と同様にWIFI設備を新たに導入し、教育環境の整備に努めました。

9) 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校への【高等教育の修学支援新制度】適用に向けた取り組み

文部科学省では、しっかりととした進路への意識や進学意欲があれば、家庭の経済状況に関わらず、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校に進学できるチャンスを確保できるよう、令和2年4月から高等教育の修学支援新制度（授業料減免）を実施しています。

本学園では、先行して理学・作業名古屋専門学校が適用となりましたが、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校においても本制度の適用は、日本人学生の入学者増に寄与し、学生が安心して学ぶ環境整備の一環としても、必要不可欠な支援であると考え

ております。

令和4年度は、学則・カリキュラムにおいて、一部修正等が必要な箇所があったことから、それらを変更する手続きを実施しました。

令和5年度は、要件の確認、実務家教員の配置等、令和6年度に機関要件の確認申請、令和7年度入学生より本制度が適用となるよう、取り組んでまいります。

以上

令和4年度 理事会・評議員会 開催一覧

令和4年5月25日(水) 10時00分 ~ 11時20分

招集通知 4月12日 資料送付 5月19日

出席評議員数 本人出席 12 書面出席 3 次席 0

出席監事数 本人出席 2 書面出席 0 次席 0

①保育・介護・ビジネス名古屋専門学校における令和3年度 国家試験会格者数について

②保育・介護・ビジネス名古屋専門学校の令和3年度 在籍学生数について

③保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 日本語学科 学費変更に関する報告について

第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 理学療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第3号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科II 臨床実習地の新規申請について

第4号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第5号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科II 臨床実習地の新規申請について

第6号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第7号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

令和4年5月25日(水) 11時25分 ~ 12時50分

招集通知 4月12日 資料送付 5月19日

出席理事数 本人出席 6 書面出席 1 次席 0

出席監事数 本人出席 2 書面出席 0 次席 0

①保育・介護・ビジネス名古屋専門学校における令和3年度 国家試験会格者数について

②保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 理学・作業名古屋専門学校の令和3年度 在籍学生数について

③保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 日本語学科 学費変更に関する報告について

第2号議案 第2号議案 第36条 決算及び事業報告について

第3号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第4号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科II 臨床実習地の新規申請について

第5号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第6号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科II 臨床実習地の新規申請について

第7号議案 第2号議案 第2次改善計画書策定について

令和4年9月9日(金) 10時00分 ~ 10時55分

招集通知 8月18日 資料送付 8月30日

出席評議員数 本人出席 13 書面出席 2 次席 0

出席監事数 本人出席 2 書面出席 0 次席 0

①中島範理事からの寄せについて

②関連当事者(学校法人 茶屋四郎次郎記念学園)との取引について

③第2次改善計画書提出について

④賞借物件の解約について

第1号議案 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 保育幼稚教育学科Iの廃止について

第2号議案 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 社会福祉学科Iに関する教育課程の変更を含む学則の変更について

第3号議案 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 経営・社会福祉専門課程への学科の統合並びにそれに伴う経営情報ビジネス学科I・II、国際経営学科I・IIの定員変更について

第4号議案 理学・作業名古屋専門学校 理学療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第5号議案 理学・作業名古屋専門学校 併修学科の変更について

第6号議案 理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科II 臨床実習地の新規申請について

第7号議案 議事録署名人の退出について

令和4年9月9日(金) 11時00分 ~ 12時00分

招集通知 8月18日 資料送付 8月30日

出席理事数 本人出席 5 書面出席 2 次席 0

出席監事数 本人出席 2 書面出席 0 次席 0

①中島範理事からの寄せについて

②関連当事者(学校法人 茶屋四郎次郎記念学園)との取引について

③第2次改善計画書提出について

④賞借物件の解約について

第1号議案 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 保育幼稚教育学科Iの廃止について

第2号議案 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 社会福祉学科Iに関する教育課程の変更を含む学則の変更について

第3号議案 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 経営・社会福祉専門課程への新設並びにそれに伴う経営情報ビジネス学科I・II、国際経営学科I・IIの定員変更について

第4号議案 理学・作業名古屋専門学校 理学療法治學科I 臨床実習地の新規申請について

第5号議案 理学・作業名古屋専門学校 併修学部の変更に伴う教育課程表の変更について

第6号議案 理学・作業名古屋専門学校 作業療法治學科II 臨床実習地の新規申請について

	令和4年11月29日(少) 13時30分 ~ 14時15分	
	招集通知 11月8日 資料送付 11月21日	
出席評議員数	1人出席	14 書面出席 1欠席 0
出席監事数	本人出席	2 書面出席 0 欠席 0
	報告事項	①学則変更に関する愛知県の愛募集について ②希望退職者の募集について
評議員会 議案	第1号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科 脊柱実習地の新規申請について 第2号議案 第3号議案 議事録署名人の選出について	第2号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科 脊柱実習地の新規申請について 第4号議案 議事録署名人の選出について
	令和4年11月29日(少) 14時30分 ~ 15時15分	
	招集通知 11月8日 資料送付 11月21日	
出席理事数	6 本人出席	6 書面出席 1欠席 0
出席監事数	本人出席	2 書面出席 0 欠席 0
	報告事項	①学則変更に関する愛知県の愛募集について ②希望退職者の募集について
理事会 議案	第1号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科 脊柱実習地の新規申請について 第2号議案 第3号議案 第4号議案 議事録署名人の選出について	第2号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科 脊柱実習地の新規申請について 第3号議案 議事録署名人の選出について
	令和5年2月14日(月) 13時00分 ~ 13時50分	
	招集通知 1月18日 資料送付 2月2日	
出席評議員数	6 本人出席	14 書面出席 1欠席 0
出席監事数	本人出席	2 書面出席 0 欠席 0
	報告事項	①希望退職者募集の結果について ②愛知県私学振興室、名古屋市在留管理局合同による現地調査の実施報告について
評議員会 議案	第1号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 5号館の用途変更について 第2号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 社会福祉学科 保育児童福祉コースの教育課程表に関する学則変更について 第3号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 教育学科における必修科目の一部変更について 第4号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 国際経営学科の教育課程表に関する学則変更について 第5号議案 議事録署名人の選出について	第1号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 5号館の用途変更について 第2号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 社会福祉学科 保育児童福祉コースの教育課程表に関する学則変更について 第3号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 教育学科における必修科目の一部変更について 第4号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 国際経営学科の教育課程表に関する学則変更について
	令和5年2月14日(月) 14時00分 ~ 14時50分	
	招集通知 1月18日 資料送付 2月2日	
出席理事数	6 本人出席	6 書面出席 1欠席 0
出席監事数	本人出席	2 書面出席 0 欠席 0
	報告事項	①希望退職者募集の結果について ②愛知県私学振興室、名古屋市在留管理局合同による現地調査の実施報告について
理事会 議案	第1号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 5号館の用途変更について 第2号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 社会福祉学科 保育児童福祉コースの教育課程表に関する学則変更について 第3号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 教育学科における必修科目の一部変更について 第4号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 国際経営学科の教育課程表に関する学則変更について	第1号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 5号館の用途変更について 第2号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 社会福祉学科 保育児童福祉コースの教育課程表に関する学則変更について 第3号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 教育学科における必修科目の一部変更について 第4号議案 保育・介護・ビジネススク名古屋専門学校 国際経営学科の教育課程表に関する学則変更について

令和4年度 理事会・評議員会 開催一覧

	令和5年3月28日(火) 13時00分～13時40分 招集通知 3月1日 資料送付 3月15日 出席評議員数 本人出席 14 書面出席 1欠席 0 出席監事数 本人出席 2 書面出席 0欠席 0	報告事項 ①監事名の選任について ②評議員名の選任について 第1号議案 審査行為 第34条 令和5年度 事業計画書並びに予算案の承認について 第2号議案 理学・作業名古屋専門学校 理学療法学科Ⅰ・作業療法学科Ⅰ 教育課程変更に関する学則変更について 第3号議案 理学・作業名古屋専門学校 理学療法学科Ⅰ 関係実習地の新規申請について 第4号議案 作業名古屋専門学校 作業療法学科・臨床実習地の新規申請について 第5号議案 議事録署名人の選出について
評議員会 議案	令和5年3月28日(火) 13時45分～14時25分 招集通知 3月1日 資料送付 3月15日 出席理事数 本人出席 6 書面出席 1欠席 0 出席監事数 本人出席 2 書面出席 0欠席 0	報告事項 ①監事1名の選任について ②評議員1名の選任について 第1号議案 審査行為 第34条 令和5年度 事業計画書並びに予算案の承認について 第2号議案 退任に伴う補欠監事候補1名の選出について 第3号議案 第4号議案 退任に伴う補欠評議員候補1名の選出について 第4号議案 理学・作業名古屋専門学校 理学療法学科Ⅰ・作業療法学科Ⅰ 教育課程変更に関する学則変更について 第5号議案 理学・作業名古屋専門学校 理学療法学科Ⅰ 関係実習地の新規申請について 第6号議案 理学・作業名古屋専門学校 作業療法学科・臨床実習地の新規申請について
理事会 議案	令和5年3月28日(火) 14時30分～14時45分 招集通知 3月1日 資料送付 3月15日 出席評議員数 本人出席 14 書面出席 1欠席 0 出席監事数 本人出席 2 書面出席 0欠席 0	報告事項 なし
評議員会 議案	令和5年3月28日(火) 14時45分～14時55分 招集通知 3月1日 資料送付 3月15日 出席評議員数 本人出席 14 書面出席 1欠席 0 出席監事数 本人出席 2 書面出席 0欠席 0	報告事項 なし

令和4年度 学校自己評価委員会・学校関係者評価委員会開催一覧

※今年度より、監事監査の一環として、監事2名に委員会へ出席し、助言等をいたしました。

6月27日 10:00～11:30	対面方式	第1回 学校自己評価委員会	
		委員長・副委員長の選出 業務監査として監事の出席に関する説明及び監事からの挨拶	
		内容	昨年度の活動結果の振り返りと今年度の重点実施項目の発表
			評価項目(※1)の見直しとそれに伴う根拠資料の追加について
			出席監事からの意見・助言

※1 評価項目の見直しに関しては、文科省による令和3年度 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質の保証・向上の推進の事業において、明示された自己点検・評価モデル 共通的評価基準モデル2022を参照どし、職業実践専門課程である介護福祉学科・理学療法学科Ⅰ・作業療法学科に合わせ、その他の学科・法人部門は、その評価項目等に合わせ、今年度より変更いたしました。

7月29日 12:55～14:15	対面方式	第2回 学校自己評価委員会	
		評価項目の見直しに関する各学科からの報告及び検討 評価項目に関する取り組み内容、課題・改善点等に関する各学科からの報告及び質疑応答	
			出席監事からの意見・助言
9月16日 13:00～14:00	対面方式	第3回 学校自己評価委員会	
			出席監事からの意見・助言
12月9日 10:00～11:15	対面方式	学校関係者評価委員会	

令和4年度 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校

介護福祉学科 教育課程編成委員会開催一覧

※今年度より、監事監査の一環として、監事2名に委員会へ出席し、助言等をいたしました。

第1回 教育課程編成委員会				※監事2名出席
日付	対面方式	内容	監事	監事2名出席
11月9日 13:00～14:15		介護福祉学科における教育課程表・授業科目等の概要・作成資料・授業アンケートの報告及び質疑応答、外部委員・監事による講評・助言他		
日付	対面方式	内容	監事	監事2名出席
12月9日 11:25～12:25		第1回 教育課程編成委員会での助言等を受け、カリキュラム内容や今後の取り組み等の検討、外部委員・監事による講評・助言他		

令和4年度 衛生委員会 開催一覧

開催日時	令和4年4月19日(火)10:00～10:30
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 905教室
内 容	睡眠について～質の良い睡眠で、身体も心も健康に～
開催日時	令和4年5月30日(月)10:00～10:30
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	新型コロナウイルスについて①～濃厚接触者になつたらどうする～
開催日時	令和4年6月20日(月)10:00～10:30
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	新型コロナウイルスについて②～陽性者になつたらどうする～
開催日時	令和4年7月15日(金)10:00～10:30
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	紫外線との付き合い方
開催日時	令和4年9月29日(木)動画配信のみ
場 所	業務時間内に教職員全員が自席にて視聴
内 容	食中毒を予防しましょう
開催日時	令和4年10月28日(金)11:00～11:40
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 905教室
内 容	マインドフルネスの実践
開催日時	令和4年11月30日(水)13:00～13:30
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	糖尿病について～運動・食事で予防しよう～
開催日時	令和4年12月13日(火)10:00～10:30
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	血圧のはなし～血圧を自己管理しましょう～
開催日時	令和5年1月17日(火)10:00～10:50
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	発達障害について
開催日時	令和5年2月27日(月)11:00～11:25
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 905教室
内 容	花粉症について
開催日時	令和5年3月27日(月) 11:00～11:25
場 所	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校 9階 901・902教室
内 容	スマホとうまく付き合うために